

大 円 寺 遺 跡

第 8 次調査報告書

2 0 1 3 ・ 1

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、近畿・北陸・東海の交通の要衝にあたり、古くよりこの3地域を中心とした様々な文化が織り成す、数多くの文化遺産があることで知られています。これらの先人たちが残した文化遺産は、市民だけではなく、広く多くの人びとに開かれた共有の財産であります。

私たちの生きる現代は、物資や情報があふれ、豊かで便利な時代である反面、自然や物の大切さ、伝統や歴史を重んじる心などが希薄になりつつある時代であるといえます。

このような時代に生きる私たちであるからこそ、先人たちの築いてきた歴史や文化を見つめなおし、その中に生きる先人たちの知恵を学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

長浜市教育委員会では、これらを現代に生かし、なおかつ未来に向けて末永く伝え残していくため、文化財の保護・活用・啓発などに日々努めております。

本報告書は、平成24年度に長浜市高月町落川において実施した大円寺遺跡の発掘調査報告書です。大円寺遺跡は、古墳時代から中世の集落跡・寺院跡として周知された遺跡です。過去に数次の調査が行われており、竪穴住居や掘立柱建物跡など多くの調査成果が得られています。今回の調査でも溝状遺構・柱穴などの遺構が検出されています。

今回刊行したこの報告書が、長浜市の歴史や埋蔵文化財をより深く理解していただくうえで、幾分でもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の円滑な実施にご理解とご協力をいただきました地元の方々、ならびに関係機関に対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成25年1月

長浜市教育委員会
教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、平成 24 年度に長浜市教育委員会が実施した、携帯電話基地局建設に伴う長浜市高月町落川地先に所在する大円寺遺跡の第 8 次発掘調査報告書である。
2. 本調査は、長浜市教育委員会が民間事業者からの依頼を受け実施したものである。
3. 試掘調査、本調査並びに整理調査は、尾崎が担当した。
4. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度、遺構埋土等の土色については標準土色帖に基づいている。
5. 遺物や写真、図面等については、長浜市教育委員会が保管している。
6. 本調査の実施にあたり、地元の方々並びに関係機関の御協力とご理解をいただいた、記して謝意を申し上げる。

目 次

序文・例言・目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査にいたる経緯	1
第2節 発掘作業の経過	2
第3節 整理作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査の方法	5
第2節 調査の成果	6
(1) 層序	6
(2) 遺構	6
(3) 遺物	9
第4章 総括	10

表目次

第1表 土色・土質一覧表	5
第2表 大円寺遺跡第8次調査遺構規模一覧表	9
第3表 大円寺遺跡第8次調査遺物観察表	9

挿図目次

第1図 調査区位置図	1
第2図 試掘調査トレンチ柱状図	2
第3図 長浜市の位置	3
第4図 長浜市周辺の地形	3
第5図 周辺遺跡図	4
第6図 トレンチ配置図	5
第7図 溝状遺構平面・断面図	6
第8図 柱穴群断面図	7
第9図 調査区遺構平面・断面図	8
第10図 出土遺物実測図	9

図版目次

- 図版一 調査前状況（西から）
重機掘削状況（南から）
- 図版二 遺構検出状況（西から）
作業風景（西から）
- 図版三 柱穴 SP 1・15（南から）
柱穴 SP 3・17（西から）
- 図版四 柱穴 SP16（西から）
溝状遺構 SD 1（東から）
- 図版五 溝状遺構 SD1 断面（東から）
全景・完掘状況（西から）
- 図版六 出土遺物（1～7）

第1章 調査の経過

第1節 調査にいたる経緯

本調査は、携帯電話基地局建設に伴う本発掘調査である。

平成24年1月24日に原因者より発掘届の提出があり、平成24年4月26日に大円寺遺跡第8次調査として、調査対象区域 92.4 m²に対して1箇所の試掘トレンチを設定し試掘調査を実施した。調査の結果、トレンチから遺構や遺物を確認した。

試掘調査結果をもとに、原因者とその保存について協議を行った結果、現状保存が困難な範囲約 32 m²について、本発掘調査を実施することとなった。

本事業の調査主体は長浜市教育委員会である。

調査体制は、以下のとおりである。

平成24年度

長浜市教育委員会

教 育 長 北川 貢造

教育部長 中井 正彦

(兼教育総務課長)

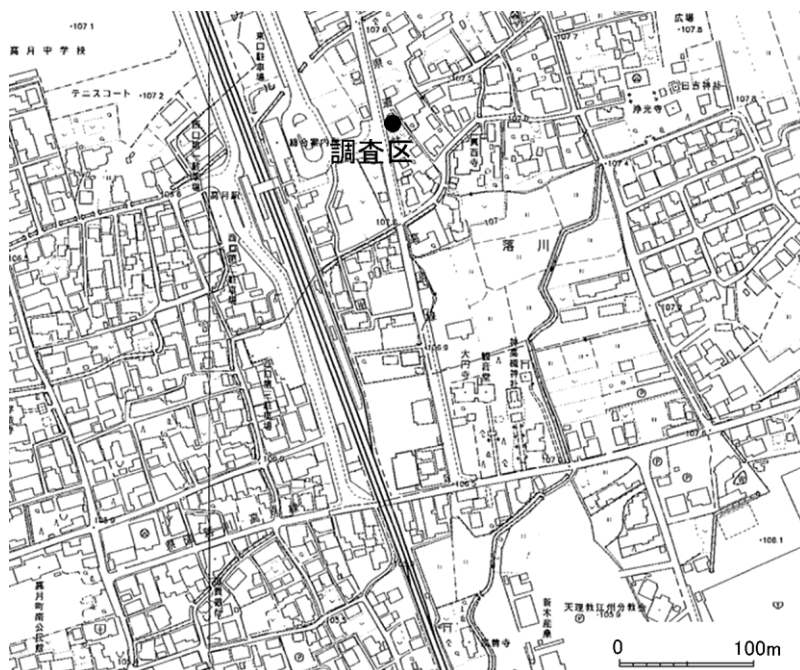
文化財保護センター

所 長 森口 訓男

副 参 事 黒坂 秀樹

主 幹 尾崎 好則 (調査担当)

主 査 沢村 治郎 (調整担当)



第1図 調査区位置図

第2節 発掘作業の経過

試掘調査は、平成24年4月26日に実施した。

対象面積92.4㎡に対し1ヶ所のトレンチを設定し、2㎡について調査を行った。

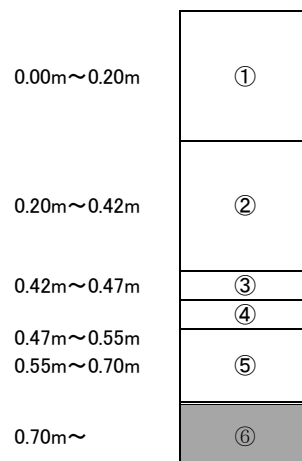
調査の結果、①現況面以下0.20mまでが7.5Y3/2オリーブ黒色極粗粒砂混極細粒砂、②0.20m～0.42mが5YR3/2暗赤褐色極細粒砂、③0.42m～0.47mが10YR2/2黒褐色中礫混極細粒砂、④0.47m～0.55mが10YR3/3暗褐色粗粒砂少量混極細粒砂、⑤0.55m～0.70mが10YR3/2黒褐色極細粒砂⑥現況面以下0.70mで検出された10YR4/3にぶい黄褐色極細粒砂が地山と考えられ、遺構・遺物が確認された。

本発掘調査は、平成24年8月7日から8月27日にかけて実施した。

作業工程は、重機による遺構面直上までの掘削、人力による遺構検出作業、遺構の半截、遺構完掘の順で行い、図面作成などのデータ収集、および記録写真撮影は工程ごとに行った。

発掘作業は、あらかじめ造成土を重機によって除去し、遺構面直上までの掘削を行った。

個々の作業の詳細については、第3章調査の方法と成果で述べることとする。



第2図 試掘調査トレンチ柱状図

第3節 整理作業の経過

整理作業は、現地発掘作業終了後から、平成24年12月までの期間内で実施した。

出土した遺物は、全て遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

遺物の選別方法は、出土した遺物の内、遺跡の性格や時期等を示し得るもので、実測可能なものについてピックアップした。

ピックアップした遺物については、実測図および遺物観察表の作成を行った後、デジタルトレース作業、並びに写真撮影を行った。

現地で実測した図面等は全てデジタルトレースを行い、必要に応じて編集を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

滋賀県の北東部に位置する長浜市は、市域の北東部に急峻な伊吹山地が広がり、滋賀県と岐阜県との県境をなす脊稜部が金糞岳（標高 1,317m）から伊吹山頂上（標高 1,377m）に続く。

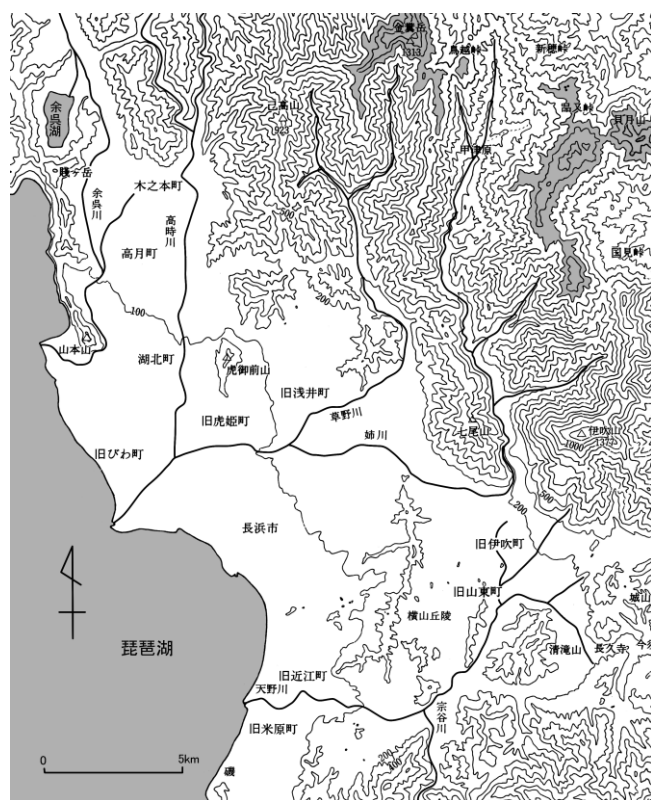
この山地を源流とする姉川、草野川、高時川、余呉川などが南北の谷を発達させて南流し、琵琶湖との間に各河川の平野部が連合して幅 5 km から 7 km の湖北平野を形成している。

低地と山地との境界は、断層運動が繰り返されて形成された断層崖となっている。巨視的にみると北西から南東方向の直線状をなし、敦賀湾、伊勢湾線の一部を構成する柳ヶ瀬断層や関ヶ原断層などの大規模な活断層に一致する。河川はこの断層崖を浸食し、その前面に山地から運搬してきた土砂を谷口から放射状に堆積して扇状地性の平野を形成している。すなわち、北から余呉川、高時川、東から姉川と草野川、南端に天野川が流れ、これらの堆積作用によって平野が形成されている。また、南東部には平野の中央に多数の孤立山塊が分布する複雑な地形となっている。これらは山東低地と呼ばれ、関ヶ原低地帯の西部にあたっている。

気候は、日本海側気候に属しており、最高気温は滋賀県南部の大津と比べて大差ないが、最低気温は日本海の湿り気を含んだ季節風の影響で低く、冬期には積雪が多い。



第3図 長浜市の位置



第4図 長浜市周辺の地形

地質は古生層で、約 2 億年から 3 億年前の海底に堆積した固い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

市域は東西約 25 km、南北約 40 km、琵琶湖を含めた総面積 680.79 km²（琵琶湖を含む）で、人口は平成 24 年 11 月 1 日現在で 44,319 世帯、124,044 人である。

また、市内には JR 北陸本線や、北陸自動車道、国道 8 号線、国道 365 号線が走り、近畿、東海、北陸圏域の交通の結節点として重要な位置にあたる。

歴史的に見ても、北国街道、北国脇往還、塩津街道等の古代からの幹線道路がはしり、古くより交通の要衝として栄え、文化の融合する地域として知られている。

第2節 歴史的環境

大円寺遺跡は、長浜市高月町高月・落川地先に位置し、遺跡は長浜市高月町の平地部東端を南北方向に縦断する高時川右岸に立地している。高時川右岸では、長浜市高月町尾山地先から同宇根地先までの約 3.5km の間に落川遺跡、高月北遺跡、高月西遺跡、大市遺跡、高月南遺跡などが途切れることなく密集して分布することが現在までの調査で確認されている。これらを大きく高時川右岸遺跡群として位置づけ、一大集落遺跡跡（官衙を含む）と推定されるから大円寺遺跡も遺跡群の一面を占めているとみられる。過去に数次の調査が行われており、竪穴住居、掘立柱建物や土坑などの遺構、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器といった土器類のほか鉄製品や砥石などが出土している。



1	大円寺遺跡	5	高月城遺跡	9	高月西遺跡
2	落川遺跡	6	森本館遺跡	10	狐塚大塚古墳群
3	高月円通寺遺跡	7	森本観音堂遺跡	11	栗原遺跡
4	高月北遺跡	8	大市遺跡	12	高月南遺跡

第5図 周辺遺跡図

第3章 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査は平成24年8月7日から開始し、8月27日まで実施した。東西約6.4m×南北約5.0m、面積32㎡の調査区である。

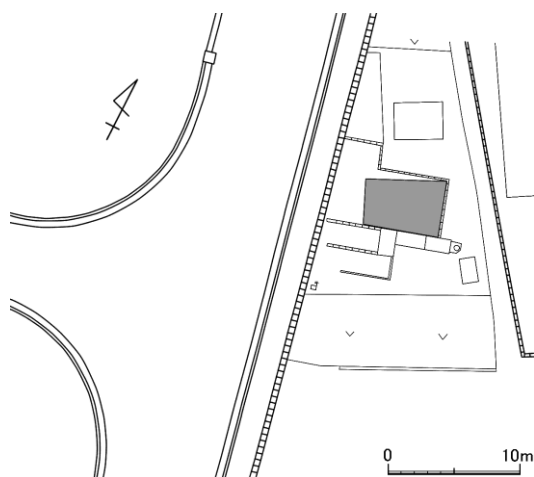
調査は、先の試掘調査で確認された遺構面直上まで重機を使用しての掘削を行い、その後人力により遺構検出作業を行った。

基本的な遺構の掘り下げ方法については、溝状遺構には状況に応じてセクションベルトを設定、柱穴は半截で掘削を行い、断面観察、実測および写真撮影を行った後、遺構を完掘した。

遺物の取り上げ方法については、遺構および層位ごとに取り上げを行った。遺物の状況に応じて事前に平面実測、レベル測定、出土状況写真撮影等を実施した。

全景写真については、遺構検出状況、遺構完掘状況の段階、部分写真については、検出、断面、完掘の時点で、白黒フィルムとリバーサルフィルムを用いて撮影した。

なお、遺構埋土等の土色、土質については、第1表 土色・土質一覧表を、遺構については第2表 遺構規模一覧表を、また、出土した遺物のうち、図示し得たものについての詳細は、第3表 遺物観察表を参照されたい。



第6図 トレンチ配置図

第1表 土色・土質一覧表

番号	土色帖記号	土色	土質		備考
1	10YR4/2	灰黄褐色		中礫	造成土
2	7.5Y3/2	オリーブ黒色	細礫混	極細粒砂	
3	10YR2/2	黒褐色	中礫混	極細粒砂	攪乱
4	10YR3/3	暗褐色	粗粒砂混	極細粒砂	
5	10YR4/3	にぶい黄褐色		極細粒砂	地山
6	5YR3/2	暗赤褐色	中礫混	極細粒砂	
7	10YR3/2	黒褐色	10YR4/4 褐色極細粒砂のブロック混じる	極細粒砂	
8	10YR4/2	灰黄褐色		大礫	栗石
9	10YR2/1	黒色	炭化物多く混じる	細粒砂	
10	10YR3/1	黒褐色		極細粒砂	
11	10YR2/2	黒褐色		極細粒砂	
12	10YR3/2	黒褐色		極細粒砂	
13	10YR2/3	黒褐色		極細粒砂	
14	10YR3/3	暗褐色	細礫少量・粗粒砂混	極細粒砂	
15	10YR3/3	暗褐色		極細粒砂	
16	10YR3/2	黒褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂のブロック混じる	極細粒砂	
17	10YR3/3	暗褐色	礫混	細粒砂	
18	10YR2/1	黒色	礫混	極細粒砂	
19	10YR3/4	暗褐色		極細粒砂	

第2節 調査の成果

(1) 層序

調査区の土層は基本的に5層からなる。第1層は10YR4/2 灰黄褐色中礫（造成土）、第2層は7.5Y3/2 オリーブ黒色細砂礫混極細粒砂、第3層は10YR2/2 黒褐色中礫混極細粒砂（攪乱）。第4層は10YR3/3 暗褐色粗粒砂混極細粒砂、第5層以下が10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂の地山面となる。なお、調査区の東側と南側の造成土上面に約50cmのコンクリート基礎が存在する。

(2) 遺構

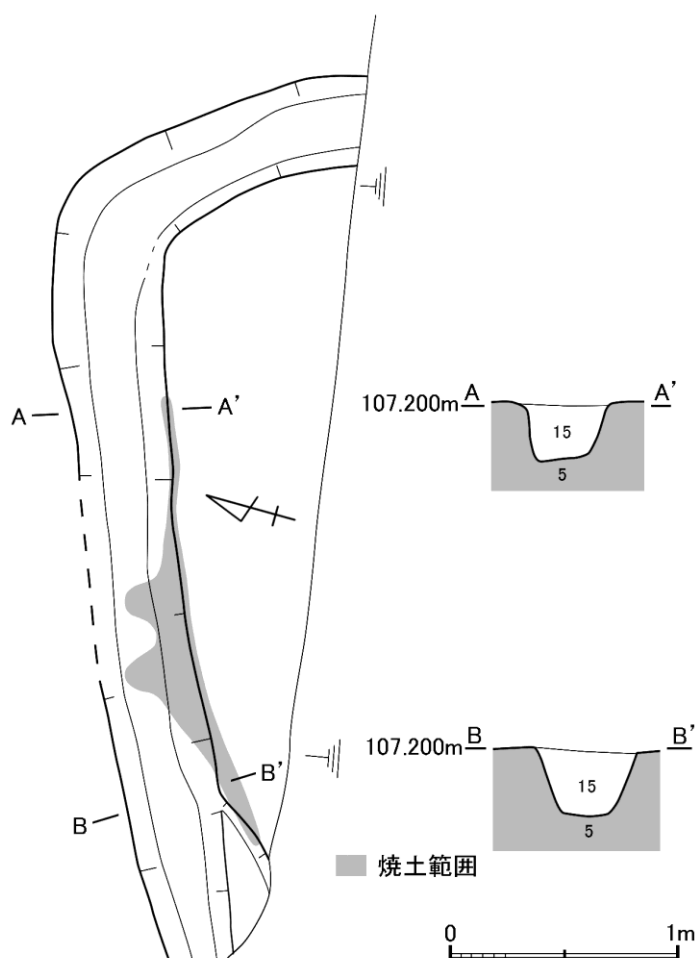
溝状遺構を1条と柱穴群を検出した。

1. 溝状遺構 SD 1

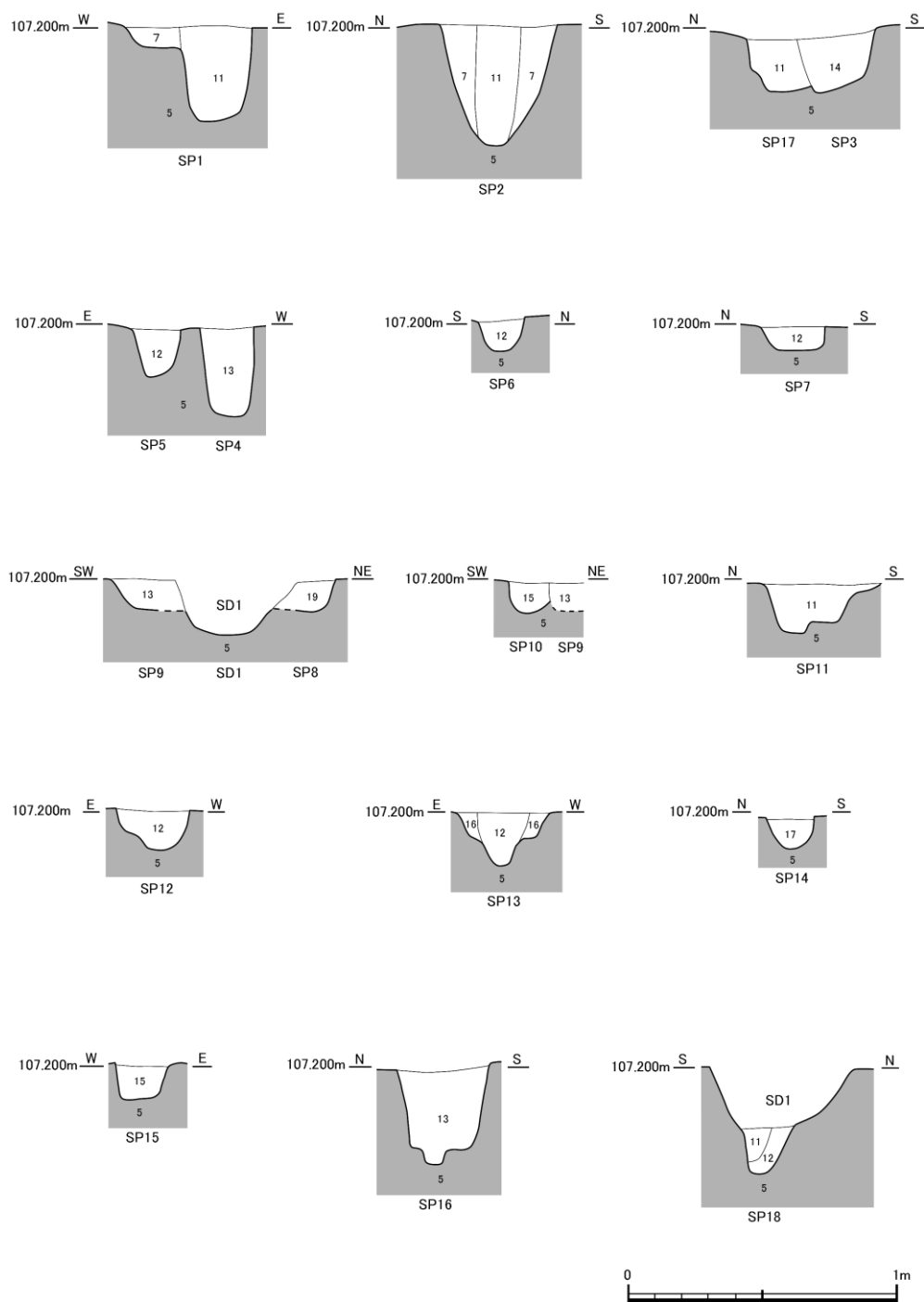
調査区の南東隅から西側に確認され、幅40～50cm、深さ約20cmの浅い溝である。溝の片側では、一部焼土が検出された。焼土からは、炭化された炭状の木片が確認されたのみであった。溝内では、土師皿が数点出土した。周辺の柱穴群は、検出状況や出土遺物から判断して溝状遺構より概ね古い遺構と推察される。このような周辺と区画することを目的としたような形状の遺構は、先の大円寺遺跡第4次調査（高月町教育委員会 2003）において確認されており、さらに隣接する落川遺跡・高月北遺跡（滋賀県教育委員会 2004）の調査においても確認されている。

2. 柱穴群 SP 1-SP18

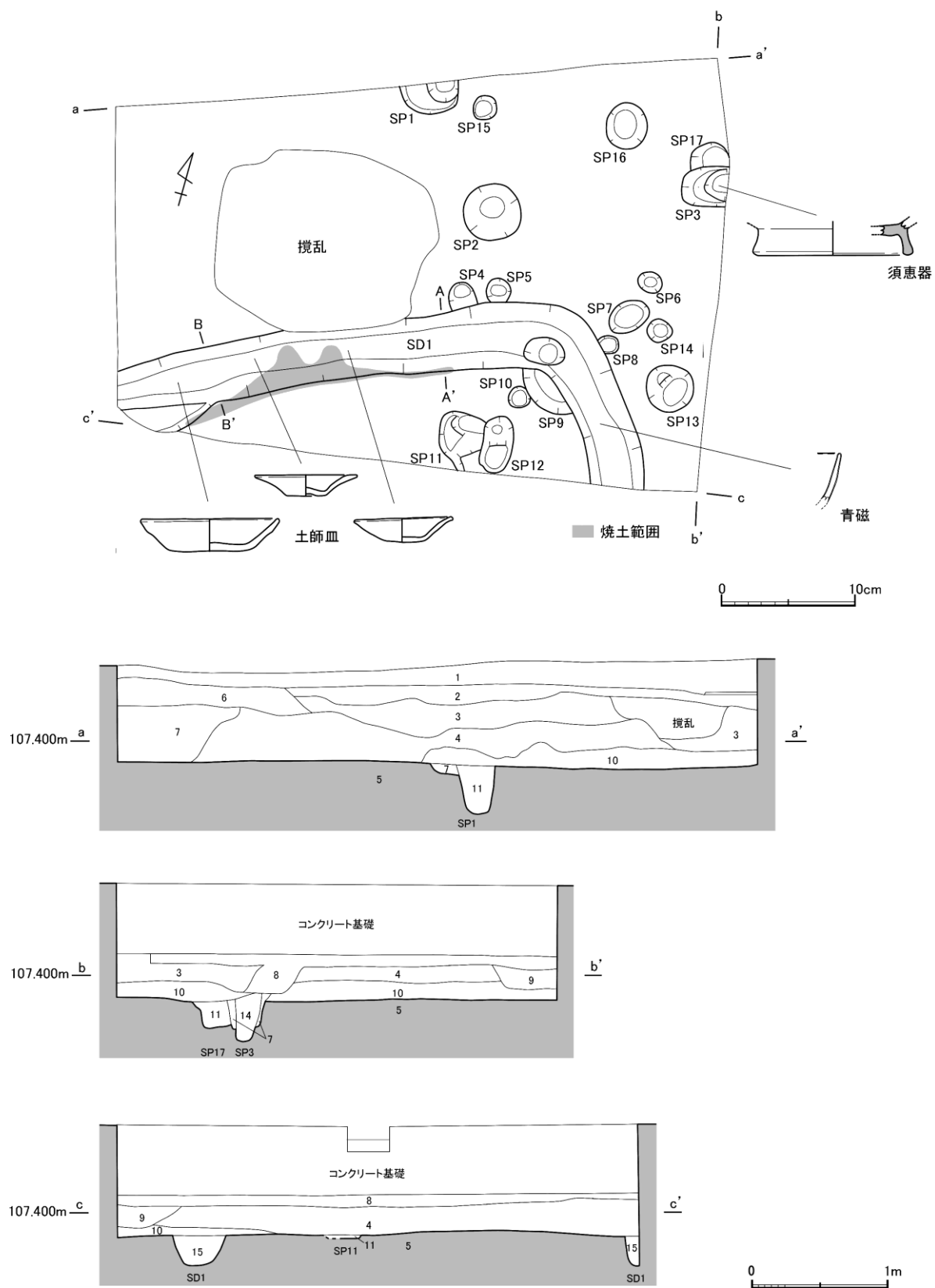
調査区の北東側から南側において18基の柱穴を検出した。検出状況から掘立柱建物跡や杭列などを構成する遺構としては確認されなかった。



第7図 溝状遺構 SD1平面・断面図



第8图 柱穴群断面图



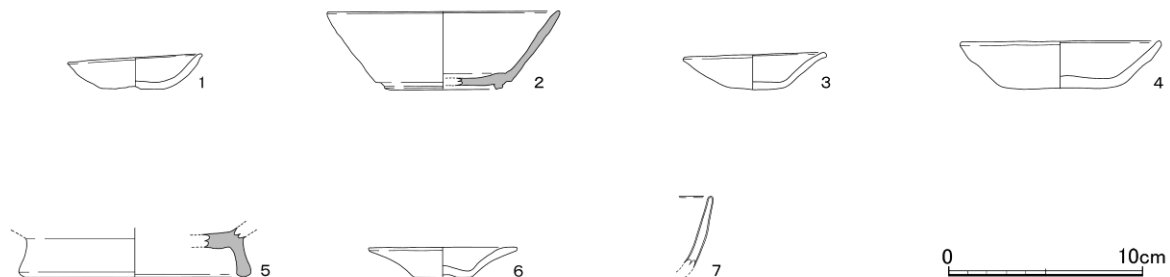
第9図 調査区遺構平面・断面図

第2表 大円寺遺跡第8次調査遺構規模一覧表

遺構	長径	深さ	出土遺物
SD1	0.40～0.50m	0.25m	No.3・4・6・7
SP1	0.46m	0.35m	図示可能遺物無し
SP2	0.43m	0.45m	図示可能遺物無し
SP3	0.28m	0.21m	No.5
SP4	0.20m	0.32m	図示可能遺物無し
SP5	0.18m	0.17m	図示可能遺物無し
SP6	0.16m	0.10m	図示可能遺物無し
SP7	0.23m	0.10m	無し
SP8	0.14m以上、SD1 に切られる。	0.12m	無し
SP9	0.22m以上、SD1 に切らる。	0.12m	図示可能遺物無し
SP10	0.16m以上、SP9 に切られる。	0.10m	図示可能遺物無し
SP11	0.47m	0.18m	図示可能遺物無し
SP12	0.27m	0.15m	図示可能遺物無し
SP13	0.33m	0.20m	図示可能遺物無し
SP14	0.16m	0.10m	図示可能遺物無し
SP15	0.19m	0.12m	無し
SP16	0.33m	0.34m	図示可能遺物無し

(3) 遺物

遺物は、主に溝状遺構、ピットから出土した。詳細は遺物観察表を参照していただきたい。



第 10 図 出土遺物実測図

第3表 大円寺遺跡第8次調査遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量 (cm)	残存率	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面			
1	精査中	土師器	皿	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 粗粒砂少量含む	良	ナデ	ナデ	口径 6.7～7.5cm 器高 0.9～1.8cm	9/10	
2	精査中	須恵器	坏身	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/1 灰白色	2.5Y7/2 灰黄色	密 極粗粒砂少量含む	良	回転ナデ	回転ナデ	復元口径 12.0cm 器高 4.0cm	1/4	反転復元
3	SD1 B	土師器	皿	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	密 粗粒砂少量含む	良	ナデ	ナデ	口径 7.0～7.7cm 器高 1.7～1.9cm	9/10	
4	SD1 C	土師器	皿	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	密 粗粒砂多く含む	良	ナデ	ナデ	復元口径 10.4cm 器高 2.4cm	1/3	反転復元
5	SP3	須恵器	台付き 甕 or 壺	N5/灰色	N5/灰色	7.5YR6/3 にぶい褐色	密	良	回転ナデ	回転ナデ	復元底径 11.2cm 残存高 2.6cm	1/10 以下	反転復元
6	SD1 畦2	土師器	皿	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	密 粗粒砂多く含む	良	ナデ	ナデ	復元口径 7.6cm 器高 1.5cm	2/5	反転復元
7	SD1 A	青磁器	碗	5Y4/3 暗オリーブ色	5Y4/3 暗オリーブ色	5Y5/1 灰色	密	良	回転ナデ 釉	回転ナデ 釉	残存高 3.7 cm	1/10 以 下	断面実測

第4章 総括

今回の調査区が所在する高月町落川は、近年 JR 高月駅前の整備を始め急速に開発が進み、田園地帯の風景から市街地へと様相が変わりつつある。落川の地名は、高時川の右岸に位置し、古代は、氾濫などにより高時川の分流が当地に集合したと伝えられている。高時川は、滋賀県と福井県との県境を源流に湖北地域を南流する淀川水系の最北端部に位置する河川である。落川は中世には山門領（延暦寺領）に属しており、この地域と山門との様子を記した滋賀県指定「日吉神社文書」の応永 29 年の段で富永荘落川郷の郷名が認められる。

今回の調査では、調査区の南東隅から南西へ延びる一条の溝状遺構と柱穴群が確認された。溝状遺構の溝内からは、15 世紀中頃から後半にかけての土師器皿や青磁片が検出された。また、周辺の柱穴群からは、8 世後半から 9 世紀前半にかけての須恵器が検出された。溝状遺構の一部埋土と壁からは、焼土と炭化物が認められた。今回の調査では、掘立柱建物など明確に居住区域をしめすような遺構は検出されなかったが、高月町教育委員会が発掘調査を実施した「大円寺遺跡第 4 次調査」や滋賀県教育委員会が隣接地で発掘調査を実施した「落川遺跡・高月北遺跡調査」で想定されているように溝状遺構は、用排水の目的と居住域間あるいは居住域外を区画する性格を持つことが考えられる。さらに今後周辺の調査が進めば、これらの資料は湖北地方における古代から中世における村落（ムラ）研究の一助となりうると考える。

参考文献

- 滋賀県教育委員会『落川遺跡・高月北遺跡』県営農業農村整備事業（田園空間整備事業）に伴う発掘調査報告書 2007 年
- 滋賀県教育委員会『殿屋敷城遺跡・荘厳寺遺跡』ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 26-6 1999 年
- 高月町教育委員会『大円寺遺跡（4 次調査）』（現地説明会資料） 2004 年
- 滋賀県埋蔵文化財センター『滋賀埋文ニュース第 291 号「大円寺遺跡の調査」』 2004 年
- 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課『平成 22 年度 滋賀県遺跡地図』 2011 年

写真図版



調査前状況（西から）



重機掘削状況（南から）



遺構検出状況（西から）



作業風景



柱穴 SP1・15（南から）



柱穴 SP3・17（西から）



柱穴 SP16（西から）



溝状遺構 SD 1（東から）



溝状遺構 SD1 断面（東から）



全景・完掘状況（西から）



1



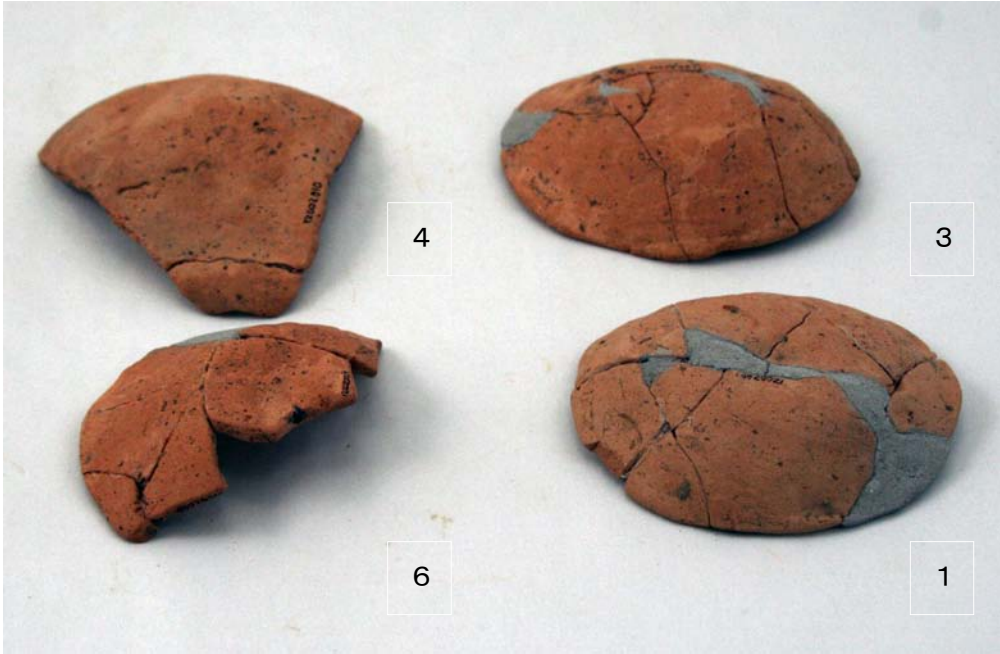
5



2



7



4

3

6

1

出土遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	だいえんじいせきだい8じちょうさほうこくしょ						
書 名	大円寺遺跡第8次調査報告書						
副 書 名							
巻 次							
シ リ ー ズ 名	長浜市埋蔵文化財調査資料						
シリーズ番号	第139集						
編 著 者 名	尾崎 好則						
編 集 機 関	長浜市教育委員会						
所 在 地	〒526-8501 滋賀県長浜市高田町 12-34 TEL0749-62-4111						
発 行 年 月 日	西暦 2013 年 1 月						
所 収 遺 跡	所 在 地	市コード	北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積	調 査 原 因
大円寺遺跡 (第8次)	滋賀県長浜市 高月町落川地 先	25-203	35° 28′ 21″	136° 14′ 18″	平成24年8月7日～ 平成24年8月27日	32 m ²	携帯電話基 地局の建設 に伴う発掘 調査
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
大円寺遺跡	集落跡 社寺跡	奈良時代 室町時代	溝状遺構・柱穴		須恵器・土師器 青磁	特になし	

2013 年 1 月

長浜市埋蔵文化財調査資料 第 139 集

大円寺遺跡第 8 次調査報告書

編集・発行 滋賀県長浜市教育委員会 文化財保護センター
滋賀県長浜市東上坂町 981

TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

印刷 有限会社 おぎした印刷